

## 長期の実績を有し、情報開示に積極的な 世界株アクティブファンド

ファンド名	委託会社	運用委託先/ 投資ファンド運用会社	投資戦略 運用開始	保有銘柄数 (2024年2月末)
キャピタル世界株式 ファンド	キャピタル・ インターナショナル	キャピタル・ グループ (米国)	1973年	271
フィデリティ・ 世界割安成長株投信	フィデリティ投信	FIAM (フィデリティ・ インスティテュー ショナル・アセット・ マネジメント)(米国)	89年	498
ティー・ロウ・プライス 世界厳選 成長株式ファンド	ティー・ロウ・ プライス・ジャパン	ティー・ロウ・ プライス・ グループ(米国)	96年	75
モルガン・スタンレー グローバル・ プレミアム株式オープン	三菱UFJアセット マネジメント	モルガン・スタンレー・ インベストメント・ マネジメント・ リミテッド(英国)	96年	38
ペイリー・ギフォード 世界長期成長株ファンド	三菱UFJアセット マネジメント	ペイリー・ ギフォード& カンパニー(英国)	2004年	40

(出所)公開情報を基に筆者作成

プロの運用者が運用するアクティブファンドが、インデックスファンドに、人気・運用成績ともに圧倒されている。しかし直近の運用成績だけでインデックスファンドに資金が集まる風潮には疑問がある。

運用実績の長いものが多い米国の投信で、過去15年間の平均リターンを比較すると、確かに世界株を対象にしたアクティブファンドのリターンはインデックスファンドに負けている。しかし米国株を除けば、逆にアクティブファンドのほうが勝っているのだ。

なぜ米国株ではアクティブファンドが苦戦してきたのか。その理由は、株式市場の主役たちが長期にわたって変わらず、しかもそうした銘柄の株価上昇が株式市場全体を左右する環境だったからだ。米国ではこの10〜15年間、「G

野村証券グループ各社で25年にわたってファンドや運用会社の調査・分析、投資助言に従事。2022年6月から現職。

第2の理由は、優良企業の復活だ。今後インフレ基調が定着すれば、コスト上昇を価格転嫁できる企業や、借入金が少ない企業など、優良企業の株価が上昇する。そうなれば、強い企業と弱い企業双方に投資しなければならないインデックスファンドと比べて、強い企

業のみに投資できるアクティブファンドのほうが有利だ。そして第3の理由は、小型株効果の回復だ。株式市場では、時価総額が小さい小型株は大型株よりもリターンが高くなりやすく、小型株効果と呼ばれる。小型株は市場での注目度が低く割安に放置さ

れやすいうえ、今後高い成長率が期待できる銘柄が多いからだ。ところが近年はGAFAMの影響で、逆に大型株や中型株のほうがリターンは大きくなっていった(右表)。それが今後は小型株優位の環境に回復する可能性が高く、小型株投資の自由度を有するアクティブファンドの活躍が期待されるといわれる。

ティ・世界割安成長株投信」は割安な中小株株への分散投資が中心。その他「モルガン・スタンレーグローバル・プレミアム株式オープン」「ペイリー・ギフォード世界長期成長株ファンド」は思い切った集中投資を行うのが特徴だ。

選ぶ際には、1人の有能な運用者に依存しない安定した運用体制が敷かれているか、投資戦略に独自性があるか、そして保有銘柄への投資や売却の理由が説明され、それに共感できるかも確認しておきたい。さらに信託報酬率が割高でないことも要チェックだ。

世界の株式投資で、アクティブファンドに復活の兆しが見えてきた。お金の育て方代表取締役 篠原 滋

# アクティブ投信という選択



## 投資手法の比較 —アクティブファンド vs. インデックスファンド—

アクティブファンド	インデックスファンド
<b>株価は企業業績などに対して割高なもの割安なもの混在。</b> <b>選別投資</b> でより高いリターンの獲得が可能に	<b>すべての株価は企業業績などに対して適正で、割安なものや割高なものはない。</b> <b>選別投資</b> による高いリターンの獲得は <b>不可能</b>
<b>市場平均(指数)より高いリターン</b>	<b>市場平均(指数)に連動するリターン</b>
投資対象を <b>厳選</b> して投資	<b>選別せず</b> 指数 <b>全銘柄</b> への投資が基本
<b>すべての銘柄</b>	<b>指数採用銘柄のみ</b>

(出所)筆者作成

## 全世界株指数のリターン

年率(円建て)	全世界株式指数	
	大型+中型株	小型株
2000年12月~24年2月	7.5%	9.6%
うちフェイスブック上場(12年5月)以降	16.6%	15.5%

(注)それぞれ税前配当込み。大型+中型株はMSCIオール・カンントリー指数、小型株はMSCIオール・カンントリー小型株指数 (出所)MSCIが公表するデータを基に筆者作成

運用実績の長いものが多い米国の投信で、過去15年間の平均リターンを比較すると、確かに世界株を対象にしたアクティブファンドのリターンはインデックスファンドに負けている。しかし米国株を除けば、逆にアクティブファンドのほうが勝っているのだ。

なぜ米国株ではアクティブファンドが苦戦してきたのか。その理由は、株式市場の主役たちが長期にわたって変わらず、しかもそうした銘柄の株価上昇が株式市場全体を左右する環境だったからだ。米国ではこの10〜15年間、「G

AFAM」と称される巨大IT企業5社が株式市場を牽引してきた。過去10年余りで米国の株式市場(S&P500)は約5倍に上昇しているが、同期間にGAFAMの株価は10〜20倍にもなっている。そうした環境下では、どうしてもアクティブファンドは苦しい。インデックスファンド以上の比率でそうした銘柄を保有し続けなければ勝つことが難しいからだ。しかし、株価の割安度を重視するアクティブファンドの運用者にとって、そうした選択は取りづらい。そのため、アクティブファンド全体では運用成績が劣ってしまうのは必然だったのだ。

### 復活する3つの理由

だが、今後は3つの理由で米国株でもアクティブファンドが活躍できる条件が整うと考える。

第1の理由は、米国の株式市場を牽引する銘柄が交代する可能性がある。いつまでもGAFAMが主役であり続けることはなく、いずれ新たな主役が登場する。そうならば、大きな比率でGAFAMに投資し続けなければならないインデックスファンドよりも、新たな主役発掘のためにさまざまな銘柄に投資できるアクティブファンドのほうが優位だ。